

2025 年2月 26日

「発達障害」分科会 2024 年度活動報告

(1) 会の代表者・連絡担当者等の確認 「発達障害」分科会

会長 吉井勘人

副会長 長澤真史

会計 板倉達哉

(2) 令和6年度の活動報告書

①総会 日時:2024年 3 月7日～14 日

方法:メール会議

議題:2024 年度活動報告・会計報告および 2025年度活動方針

②例会

日時:2024 年 11 月 3 日 (日) 14 時 00 分 ～ 16 時 00 分

場所:〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1 東京家政大学 16 号館 3 階 163A 講義室

参加者:11 名

■テーマ 私たちの国は、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の共生社会を目指している。共生とは、①他者と関わって関係を構築しながら協働的に創造すること、②その創造の過程には対立や緊張、困難が付随するが、それらを排除したり回避したりするのではなく、価値観や考えのぶつかり合いを前提としながらも関わりに参加すること、その関わりを創り上げるように働きかけること(川平, 2021) であるといわれている。

2024 年度の発達障害分科会の例会では、共生社会を目指す現代において、考え方や価値観、特性や属性の違う人あるいは集団が、それぞれのもつ枠組みを越境して関わり合う「相互交流」を通して、関係性を構築・発展させ、相互に理解を深めあうプロセスを検討した。話題提供として吉井勘人(山梨大学)は、交流及び共同学習の実践を紹介した。小学校に在籍する知的障害児と通常学級の児童との休み時間での交流のプロセスを検討し、それぞれの子どもの交流を通じた仲間への認識の変化について報告した。

板倉達哉氏(文京学院大学)と五十嵐結実子氏(上の原さくら保育園)は、巡回相談を行なっている自治体における保育者の研修会や学習会を通して、園と園との相互の交流(情報交換)により、各園の保育士がエンパワーメントされることやネットワークが形成されるプロセスについて報告した。

指定討論の若井広太郎氏(東京家政大学)には、ご自身の取り組まれている特別支援教育支援員に対する各自治体等での研修内容や方法に関する研究の知見を参考に、相互交流の意義や課題についての見解を述べていただいた。

以上から、異なる人の相互交流を通じた個と集団の発達について多角的に議論していきたいと考える。

③学会活動 なし

(3) 令和7年度の活動計画 有

①総会の開催 日本発達心理学会第37回大会(福岡国際会議場 2026年3月3日～5日)における対面開催またはメール会議

②例会の開催 対面+オンラインの学習会

・テーマ: 自閉症(発達障害)者のコミュニケーション発達支援×インクルージョン・多様性(検討中)

・ZoomやTeamsなどを利用して、講演会または論文や書籍の輪読を行う。

③学会発表 ラウンドテーブルまたはポスター発表を予定

④ニュースレターの発行